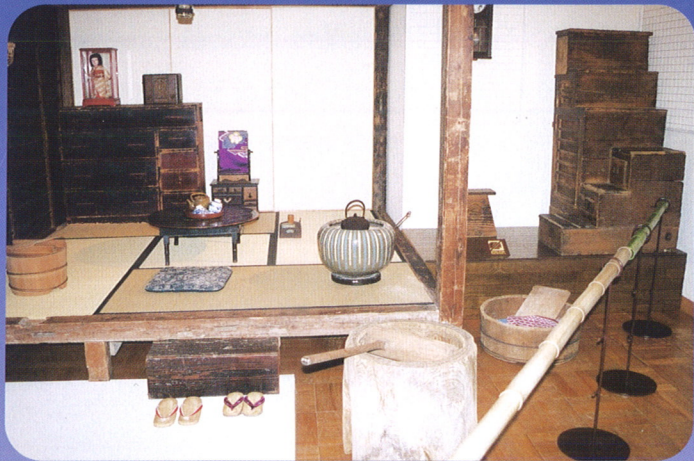


ちよつと昔の 道具たち

～おかあさんの1日～

2004

1.14→3.5



体験教室

「わらぞうりを作ろう」

2月28日(土) 午後1時～4時

参加料無料 定員15名

申込み・直接または電話で資料館へ

柏原市立歴史資料館

開館時間 9時30分～16時

休館日 月・火曜日と祝日

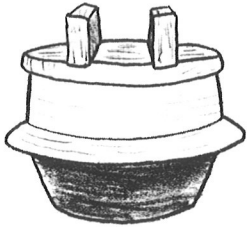
入館料 無料

交通 JR大和路線高井田駅から徒歩5分
近鉄大阪線国分駅から徒歩15分

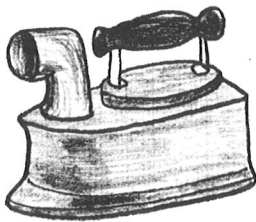
〒582-0015 大阪府柏原市高井田1598-1
TEL 0729-76-3430



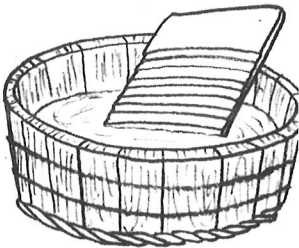
今のおかあさんも働き者ですが、昔のおかあさんはとてもたくさんの仕事をしていました。食事の用意、せんたく、そうじ、針仕事などのほか、田や畑で働いたり、機織りをしたりとても大変でした。それも、今のように電気製品がないので、ぜんぶ自分の手でしなければなりません。そのうえ女の方は差別されることが多かったのです。昔のおかあさんの生活をふり返り、おかあさんのありがたさをみんなで考えてみましょう。



かま



すみび
炭火アイロン



せんたく板とたらい

それなのに、女の方は差別されることが多かったのです。このごろは少しずつ男女差別もなくなってきましたが、今でも残っているのは、長い差別の歴史のため、男の人の考えがなかなか変わらないからでしょう。

昔のおかあさんの生活をふり返ってみて、今いちど、おかあさんに感謝したいと思います。

おかあさんの1日は、かまどに火を入れることから始まります。ほかの家族より早く起きて、ご飯の用意をしなければいけないのです。今のようにタイマーで予約することなどできません。そして、おいしいご飯を炊くためには、火かげんにとても気がつかれました。「初めちヨロチヨロ、中パツパ。赤子泣いてもふた取るな。」そして、家で作った野菜や手に入った魚などが中心の料理は、質素なものでしたが、健康的な料理でした。

せんたくやそうじ、針仕事も毎日の仕事でした。せんたく機ができるまでは、たらいに水を張り、せんたく板でゴシゴシ洗いました。そうじは家の中もほうきではいて掃除しました。やぶれた着物も何度もつぎを当てるて着ました。アイロンは炭火を使ったひのしから炭火アイロンへ、そして電気アイロンへと変わりました。電気製品のあふれた今の生活からは考えられないような生活でした。

そのうえ、おかあさんも働いていました。おとうさんといっしょに田や畑でも働きましたし、機織りも女の方の仕事でした。今でもおかあさんは働き者ですが、昔のおかあさんはこんなにたくさんの仕事をしていたのでした。



しょうわ
昭 and のははじめごろの台所のように